

グループ発表の内容（第3回絆研修② 平成30年11月11日）

◇グループワーク① サービス担当者会議の開催準備

現状の問題点とその対策について。

・本人の思いを一番尊重してあげたいが、本人、家族それぞれの思いがバラバラなことが問題。急変時の対応も一致させておかなければ、もしもの時バタバタすると思う。

・多職種できちんと話をし、できることできないことをはっきりさせておく。そしてどんな選択肢があるのか家族へ説明し、これからどうするのか、チームの方向性を一致させる。説明時、専門職の冷たさを感じることもあるので、話し方も考えないといけない。分かり易い説明を心掛けること。

・栄養状態が悪かったり、体重減少もあるため、担当者会議で医師や栄養士から説明やアドバイスを受ける。妻の介護負担が大きいので、ヘルパーから改善策を聞く。急変したときどうしたいのか希望を聞き、関係者間で気持ちのすり合わせをしておく。

・ご夫婦ともにイライラが大きくなってきているので、心のケアや妻のリフレッシュする時間が必要。

・妻の介護負担を第一に考え、サービス利用回数を増やす。介護保険サービス上限まで利用しても良いのでは？また、老老介護には限界があるため、どの程度になったら施設利用の検討をするのかなど、家族で話し合う。

・かかりつけ医や薬剤師と相談し、服薬管理も必要。

・経済的な部分では医療関係者では入りづらいため、ケアマネ中心で話を進め、様子を見て行く。

・ACPについて今の段階（元気すぎず状態が悪すぎずな状態）で一度話をしてみるのが良いのではないか。

・夜間は妻が介護しなければならないため、妻の介護負担軽減のためショートの利用など検討する。

・嚥下機能が低下していることから、将来的には経鼻、胃ろうへの変更、お楽しみ程度の経口摂取に切り替えるなど相談が必要。STさんの重要性。

・急変時の対応について考える必要がある。

◇グループワーク② もしもの時の心構えについて考える

将来、事故や病気などで身の回りの事が出来なくなり、自分の考えを伝えられなくなったときに、あなたならどのようにしてほしいですか。

- ・自分が生きていることを理解できるのであれば、子が成人するまでは生きたい。意思疎通ができないのであれば成り行きで、自然死で良い。
- ・迷惑をかけたくないという思いはあるが、自分がそこにいる意味があるのなら（家族が寝ている姿を見ていろいろな思いや気持ちがあるのであれば）一緒にその生活が保てれば良いなど。ただ、経済的な問題もあるので難しい・・・。
- ・延命治療はしてほしくないが、苦しみや痛みはなくしてほしい。経管栄養もしたくない。家族には負担のない所で過ごしたい。この研修に参加しているものの、病院で最期を迎えたい。例えば70歳くらいであれば一度は自宅で過ごしたいかな。。。
- ・家族に生きてと言われても延命は嫌。
- ・趣味の音楽などを流してほしい。
- ・急な事故で回復が可能な場合は、意識がなくても治療を受けたい。
- ・自分の思いを伝えていない現状があるので、家族が、本人はどうしたいと思うか考えて選択してくれたことであればそれで良いのかなど。ただ、選択権を誰にするのか事前に決めておきたい。それを誰に伝えておくかも決めておく必要がある。

大切なご家族がこのようになった場合、どのようにしてあげたいですか。

- ・本人の意向に沿いたいが、その時に本当にその判断ができるのか。たとえば胃ろう、人工呼吸など、本人がやめると言わない限り家族はやめてと言えない。
- ・自分の親、子など立場によっても違いが出てくると思う。
- ・家族の思いを尊重するためにも、元気な時に本人の思いを聞いておきたい。施設に入るにしても自宅にいるような温かさのあるところで。家に連れて帰っても家族に見守られながら死を迎えさせてあげたい。
- ・施設のほうが手厚い看護がしてもらえるのではないかな。
- ・延命はしないと共有している。
- ・こういった仕事をしていながら話し合いをしていない。
- ・自分の両親や配偶者には聞いているが、自分の子など自分より若い人にはしていない。
- ・具体的な延命治療を書く必要（食事介助、点滴、どこまではしてほしいといった希望）
- ・一年以内に死んでも驚かないよう、こういった話し合いを関係者、家族と行っておく。
- ・終活支援ノートのようなものに残しておき、ふだんから話しておく。ただ、何に対してもお金が必要。
- ・本人の思いを尊重したいが、自分にも生活や仕事があるので、それをどこまで犠牲にできるかが難しい。本人は延命を望んでいなくても、回復の可能性のある限り家族は延命を望んでしまうのではないかな。本人と家族の気持ちにギャップが出てくると思う。